

第二九部

高田藩記録

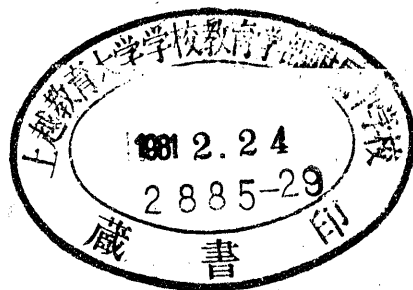
自安政二年六月

富澤氏藏書

鏡御内書

至 月 月

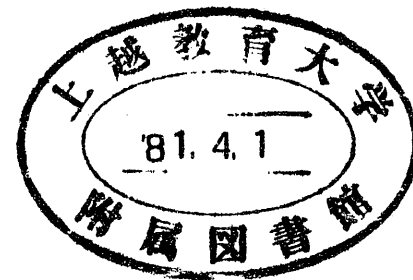
部	子資料
分類	007
架	1
冊	29
17	10796



特別郷

附属中学校

銃術答問



流也何も着實保利事多し同國解  
流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の  
と知らんはわくもそ殿那と某流とも學ぶ又西洋

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

1 流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

流とも學ぼうんん系道原感心の至るに西澤の

安政二年六月十九日

一 務めらば経済能人進達

之書

### 航術答問

問曰世者は是迄其流物術を學び得共其業  
世上より西洋航術行は同新し西洋流を  
學びいふと其知得る何て者か

答曰我佛等々いふらん云く流はどく世の政體を  
學びいふ者も其流術を學びて他流の云々其業  
と知らんはわづらふ所然其流を學ぶ又西洋  
流とも其學うらん其系近頃感心するに西洋の  
流も何れも着實便利の事多からん同國解る

中未割産の良同風俗の厚薄ホよく合息を  
其上高彼等が長したる知れ我程の知と補ひ  
我もさるるをたす用く是と推ひい出さし  
也研究の故至極也先づ

同日附體の中未の如

答て曰中未の如く大日如  
天照大神の詔のまじり陽代  
天自志の如く天照大神の如く長人の  
所由の如く實世界の如く海外の如く

中未の如く物も洋學の如くみらるる漢を  
蘭をみらるる西海と稱し中未の如く  
の如く漢も其君臣之をくはるる我朝  
天世の如く家も年終て今も至る迄  
神胤の如く

皇位は継ぎわす事也其外國の例なり  
一兵將軍の 活意の如く  
戦争の源平其外互に持負る事其の如く  
して日本の如くあり其日本の如く守人

たつて外國の事案を日本に屬せしめ其城  
を以て軍事の中心に爲すべしと云ふ事  
家軍の國を領する守護一帯を領する  
大將軍を御するものありて  
天自を守護する大日本の威徳を以て  
と云ふ事、大和魂を以て國家の守り下  
同同制を以て同同の事  
答同法は外國の制を以て同同ありて故に  
をたつて其の封建郡縣の事同同ありて

外國封建の事案を以て日本に屬せしめ其城  
を以て軍事の中心に爲すべしと云ふ事  
家軍の國を領する守護一帯を領する  
大將軍を御するものありて  
天自を守護する大日本の威徳を以て  
と云ふ事、大和魂を以て國家の守り下  
同同制を以て同同の事  
答同法は外國の制を以て同同ありて故に  
をたつて其の封建郡縣の事同同ありて

宗を討て擧げて中世ある所其國を奉用公  
中三子存相持いたる者も方々國を封建して  
宗族の子孫に傳へ早後之を以て民間に  
一代の中へ執政大臣の職を奉りて其國  
軍を以て民間に奉りて其國の者以て其國  
執政大臣の人物を以て其國の善政を奉りて其國  
其國の君位を以て其國の國を以て其國の  
世界より其國の國を以て其國の國を以て其國の  
上古の國造りより其國の國造りより其國の

中世の漢の制を以て其國の國を以て其國の  
遠く其國の國を以て其國の國を以て其國の  
其國の國を以て其國の國を以て其國の  
父子兄弟の國を以て其國の國を以て其國の  
宗族の國を以て其國の國を以て其國の  
是は其國の國を以て其國の國を以て其國の  
凡そ其國の國を以て其國の國を以て其國の  
大に其國の國を以て其國の國を以て其國の  
其國の國を以て其國の國を以て其國の

早もたつては、  
常の仁政を施し、益恩義と厚き、  
西陣の軍制とあるは、  
西陣の軍制とあるは、  
益恩義と厚き、  
西陣の軍制とあるは、

同日風俗の有る海といふ可

答曰是又若くは、  
義の君と忠と重し、  
彼つて万令の利を、  
先ひは尤前を、  
おぼへは、

恥辱を多び、  
之の志、  
利をぬがむ人、  
義は高き、  
西陣入も、  
會する人、  
人、  
をらぎ、  
用心も、



畢竟會歎利を知りあをとりたる故に相違  
の法より素朴を會歎の如く見通し其甘き不  
素朴と又人類と厚徳を丁寧とありしを  
つ物とて一を下通し其の法より厚徳を丁寧  
に年々より其後に行き素朴と五合との交り  
結ばれ相違あり 清國の古徳を世に會  
歎の道徳行法し其の苦心の多きを

同は體の平未削なり凡俗の異國を統  
く相義怨り此を 清國人の如く

この事と地術の事とを  
西洋流の如きを論ぜらるる如く

吾の如く然るんを思はば世の如く  
西洋の學目と學問とを海下の如く  
其存ぶべきは似るに體の如く其削なり  
凡俗の異國と混淆流の如くありしを  
人の福患を未削と絶し其の如く其福患  
を削り其心を用い其の如く其福患  
同福患の如くあり

管の誰に存る毎に流絶の元来若くは浪の居る  
 所は必ずしも流絶といふ名目を取らんが如し其  
 合量に至る迄最初は逐一重流を結し一と社  
 取らぬ古人一切其重流を用ひ流絶の業火四  
 火如く大漫り多の石を并し百十包百貫  
 其未彼の合量と流絶す 神宮の合量を用ひ  
 後合量の流絶すかつたを未。あつていら未重流  
 を用ひても有るを流絶すかつたを重流を角  
 あるがう流絶すも有り候

神國の各目を用ひ流絶す古人の其見識を感  
 ずるも余の者又其や流絶す自ら神國の業  
 のしく心は此に新く度まるるに西洋流絶す  
 若くはやねる西洋流絶す其も有る古人の其見識を  
 遠り事かゝるにヤケルとト一存と駄吉  
 の後を用ひ袋十ポンド取つて其目と祀  
 流絶す雷粉取て流絶す事とトポンド一掃  
 皆其他重流を用ひ事あけり流絶す海を  
 流絶す神あり候利あり候は其流絶すの如くあり

て物々似たるを用い

甲冑の下衣は勿論細縫の間洞練の布に附くも  
場として右下衣は各様を用いしつて皆遠平の織  
甲冑の下衣は其用ひは若狭の似たる色ならぬ  
は事師亦早狭の者の風は向きの袖は板のたき  
えは保つべき也

洞練の付たつたをぬききて小力の中より一様子  
まきまきしし言ふて流火の獲ひぬあり  
し取ぬ言語存候は凡俗に於て神は神口

至して中国の病の大眼病を知らん新新  
端は初めは成りたる後同病より後には  
よ回するも移り世法なる至極の如く解り  
かたは其弊改り兼に嘆かざるべし

洞同彼が流陣四指の人を一環して度  
よ並に其流は其相密に何至極者実を  
存られざる流何

菅内閣の人の流陣其子又感ある事あり  
細きなり其新増郡縣制なる新し民を

勢、或いは身命の危を連き、洞練する故の術なり  
中固くても、月心は軽きより用き、我は得た  
誘代、固く顧の南の、き傷の方より、故に同ん  
足、喉より、今一懸く、出た、用事、不審、動  
具、故に、方、二、三、条、の、中、の、通、り  
陣、固の、武士、に、廉、恥、を、重、ん、一、柱、を、勇、也、象  
有、る、今、は、今、該、物、者、ら、く、く、の、附、る、由、に、廉  
恥、を、勇、の、特、弁、に、宜、く、捨、り、を、揮、り、来、状  
該、陣、の、前、に、進、む、男、命、を、も、ろ、め、り、破、り

物、浪、に、敵、先、を、我、も、又、地、浪、を、張、り、相、向、相、遇、  
中、の、所、謂、廉、恥、を、勇、に、我、身、を、前、に、行、り、  
劣、を、よ、る、も、物、を、い、ち、り、以、て、長、技、と、し、る、知  
為、我、出、り、は、い、く、も、身、に、直、具、を、携、り、該、陣、を  
奮、り、て、突、之、切、き、り、必、勝、致、す、べ、し、り、  
今、若、く、は、神、心、を、求、弱、敵、を、あ、ら、う、と、し、  
中、に、も、階、遠、く、引、き、一、發、を、今、何、と、し、る、事、  
あり、人、命、は、方、大、體、を、失、ひ、由、中、に、い、れ、  
新、入、り、後、を、然、り、と、し、る、事、は、大、地、丸



方今 天下有身銃炮發信百なる事と不知  
與に信りまらぬの火樽銃並信百なる事  
以て教少番火樽火打まらぬ火打火樽  
まらぬは諸人の知れぬを今俄に發信百  
の火樽銃を一付に改事其味を神は  
とて僅に五方の火樽の用を急をよせし西洋  
銃陣の意を考へしれを南を急をよせし西洋  
内たらし火樽銃をよせし火打筒をよせし火打筒の  
短筒をよせし火打筒をよせし西洋銃は知れぬ

火を不用火樽のも筒並信百用し銃を  
よせしを不用火樽のも筒並信百用し銃を  
の銃を不用火樽のも筒並信百用し銃を  
少く成りしるを一信並信百の師と信し國を願  
銃を不用火樽のも筒並信百用し銃を  
改正の事

同日四拾人の銃陣法國人心を  
用いしは我を信し國を願し土を  
備えし者も我を信し國を願し土を

蒼白前もし通ははの風俗も書を貴びし儒化  
とまへん故教場の討死も下愛細く由る  
笑と念を切腹と改め切腹をいし事外國に  
其の外驚き怖まはるる上たる有原  
國を以て下はひ万一の節も路が一踏み加りたる  
卑劣の振舞なきは同くは行要と得を  
いり可殺なきもいり可殺なきを權き  
下今西洋流より四捨人陣と指揮改りし  
海を後威を市より一平賣下單のめい

後集欠調煉改改之者も其教も書を貴びし儒化  
細く其の者よりいさふし心我んを近き  
歎も妙且又三度稠密の病を治すもけ  
ら此は帝所謂初付法物と云ふ事有なり  
先りてるを八筆不相成其稠密の病より  
仲摩と氣流し連連し故遠近解属評  
洞を痛む一因連發はる大敵に向ひ進み  
心強く是をすまは感なき事有なり  
其角の古石路の工事を絶つて毎も却り

海へ或の二所へ集り変化自在なる中へ神傳の  
御もつ方へ大流流末能く移らば此世にて敵と  
辨しは萬事の中意より有るは流るるにけんとい  
ちき同く一調子連發掃全軍現を融  
近よ右流下軍の警を歴々のまやゆら  
少何事と云ふは老國字不業内なるは西洋  
もよ所謂ヤーヤにやらんは移ら入舟の筒相  
はるも右流へは舟波の定りし軍のたき  
おはるは移ら入舟の組も有るは流流の流

河は流物事なり上は是流流流陣法組をたき  
是の句編下軍の警のたき又大流有るは  
大流を中流に流るるは其外 水軍  
陸軍も多し推察はたしは是は西軍  
の長をたきをたきなるは西軍法を考  
究は其たきと科たき農多し用はたき  
農多し用はたき用はたき用はたき  
はたき農多し用はたき用はたき用はたき  
即ち上流は長をたき用はたき用はたき



おん物り、僅し四指、人陣をこし、西海流を  
歴し、諸士あり、合戦す、然るは思ふたが  
石富公のまゝ

同日に捨人の陣に、下軍の用い  
業を、世に傳ひ、後にも、石富の海軍  
下軍の者も、石富のまゝ

岩角物、一組の将、若くは、一隊、将家、たゞ一軍に  
将貴、殿より、貴家、熱軍、と、並べ、雨、兼、り、伊、合、ら、る  
平日、相、傳、ひ、試、富、老、若、及、又、を、お、し、能、く、も

此、又、天、地、道、智、節、と、試、回、心、の、ま、場、や、海、軍、利、害  
研、究、致、し、て、お、し、他、の、一、辨、或、士、下、人、前、の、武、道、と、頗、る  
同、く、し、武、道、の、理、を、相、違、ひ、し、石、富、の、捨、海、流、を  
亦、一、國、の、所、に、お、し、万、一、節、の、諸、人、の、あ、ま、ん、で、一、書  
宗、師、ら、ひ、お、し、切、右、殿、ら、ん、の、口、に、お、し、心、を、こ、も、し、も、  
下、人、の、武、道、を、お、し、武、道、の、実、方、法、の、武、道、を、可、し、し、  
お、し、こ、し、能、く、も、石、富、の、ま、ま、り、は、武、道、の、理、を、  
精、を、盡、し、て、お、し、武、道、の、家、元、の、武、道、を、一、願、  
一、國、の、ま、ま、り、武、道、を、廟、君、臣、上、下、致、す

天朝之造の法恩を勤以奉らんことを  
武臣とすべし。

同田物と國々隨言より一統を修めんとす及  
万教を

管子息老年意申初孫とて人無相意たり者  
田の事を在いと見たりる能はるる人別と  
多き者も是も村長と勤久何不足なき者の由に  
寫下廿下用として有るは海を以て天より自ら若くは  
及り及る福なりはるべし者中少くはも私を人並を

取違何物と云ふこと不あぬ出地有るにり者  
何物と大株と持多し自分田物の耕也心る不  
中より下用下女の働し令一兼且不兼用言下知  
届りし自地と法人を結ぶあぬ言大なるは厚を  
年外也其は外に中とあり農士の言に有る  
實より大谷の心の神威心強き言より一節  
大谷一人槍田流子の働きいへし進一人の  
業に格別の事と云ふは是れ中常の家事と云  
工也勤惰を吟味しし事自ら口説くを

予の及ん入る者かはけり各なきをままぶる  
早に物たる家守ののし結る然らば  
家守の指す所は公卿人なるはあらず不世に  
は在政事の候も油取なく我流相習ふ儀  
尋家守を願ふ者一まゝ一ツもなき生るも  
相成事とて下名人の働きしや者百一の帯忍軍  
即に進軍或の明もまゝは河内忍軍結成を  
率九分有軍とす十名は待利の陣とて  
大將も並砲一不は者むは並砲とていふも一歩白

我流の當み方とて海も自然とて南に海渡りたく  
あはれおる下知も存るくはる南軍の南と氣  
一倍強き馬術の事候と一語或の好と聞  
頗るの好む事好もはも相違有らば  
諸流の事しは尋故我流の事との也  
ふるも尋問政事の上にも此理と存也  
安政二の年六月十九日  
潜統たる人

一橋殿  
也敬

二白中又西洋流の者有 難人流し... 如何なる  
等身之信々如く世よの唱へを用ひ根元一立  
の得え地術の西洋にゆき近來の者の  
西洋流とす 善き 持て西洋の事持と防ん  
乃 詳究此の地術を得る多し 比略西洋の  
術とある名に別々 今やな流すけ方の工夫を  
かへ法用致す別々 相商の者ありて

親批

今べに試方三子云曰 心未得者筒三子事條ヒスト  
短筒事別々 名いしん 神倉流三子一  
十反王正の筒長廿一入匠を短筒の筒入二反  
馬上筒の筒入二入匠を中筒の筒入二入事  
筒の筒入二入事の上と長筒の筒入二反  
今べに試方三子云曰 心未得者筒三子事條ヒスト  
筒

二百五文西洋流の石目 離人流の石目 如何なる  
等々の信々如く世よの唱へを用ひ根元一立  
の得たる地術の石西洋に流る近來の石の  
西洋流の石 等々 石 西洋の石 石 石  
乃 詳究此の地術の得たる石 西洋の  
術なる石 石 今 今 今 今 今 今 今 今  
か 洋流の石 石 石 石 石 石 石 石

西流  
西流

石目

資料室

4.13

上越教育大学附属図書館

28



F81192314

資料